

日本工学院八王子専門学校	開講年度	2019年度（平成31年度）	科目名	ビジネススキル1（シナリオ）	
<b>科目基礎情報</b>					
開設学科	放送芸術科	コース名	制作、カメラ、音声	開設期	前期
対象年次	2年次	科目区分	選択	時間数	30時間
単位数	2単位	授業形態	講義		
教科書/教材	毎回プリントを配布する。参考書・参考資料等は、授業中に指示する。				
<b>担当教員情報</b>					
担当教員	鈴木 庸尤	実務経験の有無・職種	有・映像制作業務		
<b>学習目的</b>					
<p>この科目を受講する学生には、物語の構成方法の世界標準である三幕構成や映画を書くために必要な基本的知識を学んでもらいます。ハリウッド式のシナリオ創作術をベースに、神話や戯曲、童話など永年語り継がれている物語の共通点は何か、人に好まれる物語の構成や魅力的な登場人物の作り方などを実例をあげながら具体的に伝授いたします。シナリオについて知る事はシナリオライターや演出家のみが必要とするものではありません。全ての映像作品の基本はシナリオ（台本）です。カメラマンや照明技師、録音技師、美術担当者にもシナリオを読み解く技術、知識は必要です。就職活動の際に選択コース以外の知識をベースに面接、就職試験に生かせる知識を学ぶ。</p>					
<b>到達目標</b>					
<p>座学が基本ではありますが、この科目を受講する学生には実際にシナリオを書いてもらいます。知識というものは講義を聴いただけではなかなか身につけません。講義を受ける（インプット）とシナリオを書く（アウトプット）の二つが揃う事で、より知識は身につく、高める事が出来るのです。尚且つ、就職活動で論文、作文など文章を書く機会に接した際、頭の中で言葉選びや文章構成がスムーズに出来るように慣れておくことが目標です。</p>					
<b>教育方法等</b>					
授業概要	ビデオ、スライドを使って講義を行います。各回ごとにプリントを用意します。プリントの余白にメモを取るか、ノートにメモを取るように努めて下さい。授業中の私語は禁止しますが、ディスカッションは歓迎いたします。講義を聞いているだけよりも質問をしたり、話し合ったりした方が知識は高まります。				
注意点	理由のない遅刻、欠席は認めません。社会へ出てからは最低限のルールだからです。授業中の私語、携帯端末等の使用も禁止します。特に私語は講義の進行妨害、他の生徒が講義を受ける事への妨害行為となる事から厳禁です。専門学校は専門知識や技術の習得だけと目的とするものではありません。学生から社会人への移行の場でもあります。社会人としてのマナーや心構えも身につけて欲しいです。ただし、授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。				
評価方法	種別	割合	備 考		
	試験・課題	60%	学期末に試験を行います。成績は試験結果と課題、出席率の総合評価。		
	小テスト	0%			
	レポート	0%			
	成果発表 (口頭・実技)	0%			
	平常点	20%	特に学習態度の悪い者に対してはペナルティーを科す。		
<b>授業計画（1回～15回）</b>					
回	授業内容	各回の到達目標			
1回	シナリオの基本	シナリオの基本について知り、アイデアを構築する。			
2回	シナリオの構成	シナリオの構成について知り、ログラインを書いてみる。			
3回	ストーリーアナライズ（1）	ストーリーの分析方法を知る。ログラインを書く。			
4回	ストーリーアナライズ（2）	ストーリーの分析方法を知る。ログラインを書く。			
5回	キャラクターの創造	登場人物の作り方を知り、キャラクター設定を書く。			
6回	ジャンル	物語の主要ジャンルについて知る。バックストーリーを書く。			
7回	始まりと終わり	物語の始まりと終わりについて考える。カードを使ってストーリーを構成する。			
8回	物語の組み立て	物語の構築法を知り、パラダイムを作成する。			
9回	脚本の形式	シナリオの基本形式を知る。トリートメントを執筆する。			
10回	黄金のルール	物語における黄金のルールを知る。トリートメントをリライトする。			
11回	第一幕の構成	第一幕の構成について知る。シナリオの執筆。			
12回	第二幕の構成	第二幕の構成について知る。シナリオの執筆。			
13回	第三幕の構成	第三幕の構成について知る。シナリオの執筆。			
14回	『千の仮面を持つ英雄』実践ガイド	神話理論の応用。シナリオ執筆。			
15回	前期試験対策	試験対策～基本の総復習 シナリオ執筆。			

日本工学院八王子専門学校	開講年度	2019年度(平成31年度)	科目名	ビジネススキル1(色彩)	
<b>科目基礎情報</b>					
開設学科	放送芸術科	コース名	照明・編集・美術	開設期	前期
対象年次	2年次	科目区分	選択	時間数	30時間
単位数	2単位	授業形態	講義		
教科書/教材	毎回レジュメ・資料を配布する。参考書・参考資料等は、授業中に指示する。				
<b>担当教員情報</b>					
担当教員	藤原 祥子	実務経験の有無・職種	有・カーデザイナー		
<b>学習目的</b>					
<p>色彩に関する基礎知識(色彩検定3級～2級に合格できる範囲)を学び、広く一般的な色彩の実用例を交えながら、色の効用を身につける。映像業界において、求める色の塗料を調色する際に、色の三属性(色み、明るさ、鮮やかさ)や混色の理論を理解していれば、勘だけに頼ることなく、より確実に短時間で狙った色を完成できるようにする。</p> <p>また、就職先で求められるスキルを身に付け、色彩検定3級を受験できる知識を学ぶ。</p>					
<b>到達目標</b>					
<p>一般的な色彩の基礎知識を身につけ、課題や将来の業務の中で、自然と色彩に対して意識を持てるようになる。</p> <p>就職活動で履歴書に記入できるように、色彩検定の合格を目標とする。色彩を学ぶことでセンスがよくなり、大いに利用することができます。色にはさまざまな特徴があり、理論や法則が明確に存在しています。そうした色のルールに従って色を選び、自分が好きではない色や普段使わないような色も、自由に使いこなすことができる。</p>					
<b>教育方法等</b>					
授業概要	<p>講義を中心に、スライドなどを使って、色彩にたくさん触れていく。</p> <p>フルカラー資料を毎回配布し、重要ポイントを書き込み、重要ポイントを理解する。</p>				
注意点	<p>講義が中心になるので、毎回配るプリントをしっかりと埋めていく。授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。理由のない遅刻や欠席は認めない。授業に出席するだけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーで授業に参加することを求める。ただし、授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。</p>				
評価方法	<b>種別</b>	<b>割合</b>	<b>備 考</b>		
	試験・課題	80%	試験結果で評価する		
	小テスト	0%			
	レポート	0%			
	成果発表 (口頭・実技)	0%			
	平常点	20%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する		
<b>授業計画(1回～15回)</b>					
回	授業内容	各回の到達目標			
1回	ガイダンス	身の回りの色について考える			
2回	色の表示(1)	色をあらわす方法を理解する			
3回	色の表示(2)	色を伝える方法を理解する			
4回	光と色(1)	色が見えるということを理解する			
5回	光と色(2)照明	照明による色の見え方の違いを理解する			
6回	光と色(3)色温度	色温度というものを理解する			
7回	光と色(4)混色	混色の概念を理解する			
8回	色彩心理	色彩における心理学			
9回	生活と色	生活の中の色、色彩検定3級内容に挑戦する			
10回	色のイメージ:赤・青	一般的に色彩の持っているイメージを理解する			
11回	色のイメージ:黄・緑	一般的に色彩の持っているイメージを理解する			
12回	色彩調和	色彩が調和するということを理解する			
13回	色彩調和	色彩が調和するということを理解する			
14回	配色レッスン	配色の具体的な作業			
15回	まとめ・復習	総復習、定期試験対策			